

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年2月22日

事業所名 発達支援ゆず苦楽園ルーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		活動に合わせて用具を移動させる等して、安全に配慮している。	現状対応していきます。
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		法令に基づき、適切に配置している。	現状対応していきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		掲示物をなくす、不要なものは表に出さない等で注意や集中力が上がるよう配慮している。またスケジュールを掲示する等ルールを視覚化することで安全に活動できるよう配慮している。	現状対応していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		スタッフにより毎日の清掃を実施している。また活動や子どもの特性に合わせてパーテーションや机の配置を変える等し、活動に集中しやすい環境を整えるよう配慮している。	現状対応していきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		定期的なスタッフ面談・担当者同士のディスカッションを行う中で、PDCAサイクルについて、各スタッフが常に認識できるよう努めている。	現状対応していきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>	現在第三者評価は実施していないが、定期的なスタッフ面談を行う中で、各スタッフの業務における課題・目標設定を行っている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		定期的なスタッフ研修・ケースミーティングを通して、スタッフのサービスの質・スキル等の資質向上を目指している。	今後も積極的に日々の中での研修を行っていきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者のニーズ、子どもの特性を適切に評価し、客観的な視点でプログラムを立案できるよう留意した上で、支援計画を作成している。	現状対応していきます。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化された発達記録チャートによるアセスメントを行い、それをもとに日々の療育プログラムを構築している。	今後も継続していきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		保護者ニーズを踏まえ、課題の設定を行い、具体的な手立ての立案、記載を行っている。	現状対応していきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画をもとに、日々支援内容や方法を検討し、修正を行っている。	スタッフ研修等により、より有益性のある支援計画となるよう努力します。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担当スタッフ同士でケースの振り返りを行い、次のプログラムを立案している。	日々スタッフ間で切磋琢磨しながら、療育の品質を今以上に上げていきます。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの変化成長とともに興味・関心の広がりが見られた場合は、スタッフの評価結果をすり合わせながらプログラムを考え、実行している。	子どもの自己肯定感を上げる取り組みを積極的に行っていきます。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		個別療育を主軸に、小集団プログラムを取り入れ、必要に応じて小集団での関わりの機会を持てる仕組みを用意している。	現状対応していきます。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日のレッスン前にスタッフ間で支援内容の確認や役割分担を行っている。	継続していきます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		レッスン終了後にその日の支援の振り返りや気付いた点や子どもの変化等の共有を行っている。	継続していきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		スタッフ間の記述方法も共通言語を使うことで、より記述の標準化を図っている。	今後もレベルアップを目指します。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的の問題点を再抽出し、その時点での課題を検討し、目標レベルの再設定、プログラムの再構築を行っている。	継続していきます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		必要に応じて、サービス担当者会議への参加を行っている。	今後も必要に応じ、会議への参加を行っています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		地域担当の保健師との情報共有を必要に応じて行なっている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	-	-	非該当	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	-	-	非該当	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者を通して間接的に、または保護者からの希望がある場合は電話にて直接の情報共有を行なう体制を整えている。	今後、今まで以上に連携ネットワークを広げていきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者を通して間接的に、または保護者からの希望がある場合は電話にて直接の情報共有を行なう体制を整えている。	今後、今まで以上に連携ネットワークを広げていきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		保育所等訪問支援時/個別療育時それぞれの子どもの様子について、他の児童発達支援事業所と定期的な情報交換を行なっている。	継続していきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	直接的な交流は行っていないが、子どもの通園先の園児や先生方に子どもの特性を知ってもらうことの重要性は認識している。	必要に応じて、ネットワーク作りを行っています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		今後、必要に応じて参加を検討していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		レッスン中およびレッスン後には必ず保護者へのフィードバックを行い、その日に伝えるべきことはその日のうちに伝達するようにしている。	継続していきます。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○		保護者支援には、相当な時間をかけている。	継続していきます。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>		契約時や面談時には、ひとつひとつ丁寧・親切的な説明を心がけている。	継続していきます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	<input type="radio"/>		面談において支援内容を説明する際には、個別支援計画を提示し、子どもの課題をそれに応じた目標や具体的な支援内容についてひとつひとつ説明を行っている。	継続していきます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>		保護者同席での個別療育の中で、ちょっとしたことでもすぐに気軽に相談できる体制を整えている。	継続していきます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	<input type="radio"/>		保護者が自由に書き込める情報交換ノートやオンライン掲示板にて保護者同士が交流できる場を提供している。	継続していきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>		相談があれば、都度気軽にスタッフまたは児発管に伝えていただくよう契約時に説明をしている。	継続していきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>		YouTubeやインスタグラム等を通して情報発信をしている。またブログでは療育全般についての情報発信も積極的に行っている。	継続していきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	<input type="radio"/>		個人情報の持ち出しがないよう徹底している。また個人が特定できるものを誰もが見ることができない場所に置かない等の配慮も行っている。	継続していきます。
	39	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>		節度と配慮をもった意思疎通や情報伝達を行っている。	今後も分かりやすい説明と配慮を心がけます。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	<input type="radio"/>		現在は実施していない。	地域社会を巻き込んだ事業展開の方法について、今後も模索・検討していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		救急時対応については、スタッフへの周知はもちろんのこと契約時に保護者に対し説明を行っている。保護者への周知の不十分さが課題として残っている	スタッフには、マニュアルの熟知を徹底させ、感染症の流行時期には声掛けや情報発信等で注意を促していきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年2回以上の避難訓練を行っている。	保護者への協力要請も積極的に行っていきます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		定期受診の有無や服薬等について、契約時に確認を行っている。	継続していきます。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	給食やおやつを提供する機会はないが、アレルギーの有無については契約時に確認し、教材の選定時に参照している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット発生時には管理者に報告するとともに報告書の作成を義務付けている。また報告書は全スタッフが随時見ることができるようファイルに綴じ保管している。	継続していきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		入職時研修にて、人権および虐待防止研修を行っている。	今後も入職時および定期的な研修を行っていきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	契約時に保護者へ事前説明を実施している。	身体拘束を行わなくても支援ができる方法を模索・実践していきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。